

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101386		
法人名	社会福祉法人青照会		
事業所名	グループホーム グッドライフ熊本駅前		
所在地	熊本市西区春日2丁目1番24号		
自己評価作成日	平成29年8月117日	評価結果市町村受理日	平成29年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が立ち上がり、今年で4年目を迎えます。職員一人一人理念に沿って、「お一人お一人に寄り添う笑顔あふれる和みの「我が家」を目標として、日々ケアに努めています。4年目を迎えて、立ち上げ時と変わらないのが、週3回の入浴を実施し、入居者様に不快な感じを与えないようにしているところです。また、施設内研修、勉強会、委員会活動も年々スキルアップし、職員の質の向上に努めています。これからも、その人が望む生活、意向に沿いながら支援していきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から4年目を迎えた都市型の新しいグループホームである。8階建ての最上階という熊本初の高層部にあり、市中部や白川の流れを眼下に見ながら、2ユニット18名が生活している。法人の利点を活かし同ビルにある特養やデイサービス、隣接する看護・福祉の専門学校と連携し、祝事や祭りに顔を合わせ、理学療法を生活に取り入れるなど人々の力が融合している。立地上地域との直接的な交流が難しい分、外出や階下に降りて散歩を楽しむ中に人々と関わり、季節の変化を肌で感じながら日々を送っている。管理者は3年を経験した今、永遠のテーマとして現行の理念を継続し、入居者への支援向上のため職員研修の充実を図り、個々の職員の能力を反映させたいとしている。今後の運営が期待されることである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を掲示し、理念に基づいたケアが出来るように常に心がけている。	法人の基本理念である『愛と和』に込められた人としての尊厳や誇りを持った人生を尊びながら、グループホーム独自の理念を確立している。笑顔あふれる「我が家」は永遠のテーマであり、職員のケアの拠り所として捉えている。	開所から4年目を迎え現在の理念をケアの柱として更なる浸透を継続しているところであり、理念に立ち返る機会や地域への啓発が必要と思われる。また、ユニット中央の談話室などにも新たに理念を掲示することで来訪者への発信に繋がるものと考え。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の学校のイベントに参加したり、季節の行事、ギター、三味線演奏会、歌声サロン、散歩、飾り等を取り入れた活動に参加していただいている。	同敷地内で運営する学校の行事(秋まつり、学園祭)や地元の夏祭りに参加し、学生や地域の人々との交流を図っている。また、外部からのボランティアや祝事には、各階の事業所が一堂に会し歌や舞踊、入居者には懐かしい時代のDVDの上映会などに触れる機会が持たれている。ビル最上階にあるホームだが、天気の良い日は近くの白川沿いを散歩する等階下に降りて活動するよう心掛けている。	建物の構造上、地域の人々が気軽に訪れることは少ないと思われるが、今後も中・高校生の体験学習を積極的に受け入れたり、各事業所の窓口ともいえる1階受付の心ある対応などは地域の一員として重要なことだと思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、外部評価の資料なども掲示し、いつでも家族などが見れるようにしている。また、入居者様の普段の様子などを写真に収め、掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、会議では貴重な意見やアドバイスをいただいている。入居者様の普段の様子を写真に取り入れて、それをパソコンからテレビにつなげ、視覚的に分かるようにした。また、施設の取り組んでいる状況や事故、ヒヤリハットの報告もしている。運営推進会議の内容も家族・職員がいつでも見れるように掲示板に掲示している。	2ヶ月ごとの定期開催が実現している。包括や地域・家族代表者などが参加し、直接的な意見をもらう機会として活かされている。ヒヤリハットなどについて現在まで口頭での説明としていたが、今後は書面にて伝えるよう検討している。祭りや地域情報の収集は、入居者の外出に繋がっている。	会議は4階の交流センターを会場としており、毎回でなくとも参加者にホーム内を見もらうことで、会議内容にも実感が得られるものと考え。また、全家族にも参加の声掛けをしたり、職員もリーダー以外に参加できる方向で検討願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	熊本市ボランティア協会の支援などを受けて、協力いただいている。その他にも緊急時の避難場所として施設を開放したり、熊本市介護保険サポーターポイント事業受入れ施設にもなっている。	運営推進会議に参加する地域包括の意見や提案をケアに反映させながら、行政との良好な関係を築いている。傾聴ボランティアによるレクレーションのサポートや入居者の話し相手など、週初めの来所も定着している。	行政へ今回の外部評価の結果を出す際などにも、直接会話する機会として、意見をもらうことでホーム運営に反映できるものと考えている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、ベッド柵の基準や手足の拘束、車椅子での拘束、スピーチロックなどの理解を深め、職員同士で認識の共有を行っている。	職員は法人研修で、身体拘束やそれに伴う弊害について共有している。特にスピーチロックや言葉使いについて、発する時に相手を思っているか否か今後も課題としている。センサーマット使用については、評価表にてチェックし、居室入り口に使用の有無を表示するなど使用目的や時間を明確にしている。	拘束について振り返る機会が必要としており、身近な問題や実例をあげて検討したり、チェックシートなどを活用して各自が自己評価できる機会を持つことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や日々のケア時にボディチェックを行い、虐待を思わせるような傷がないか注意を払い、虐待防止に努めている。また、勉強会なども取り入れて、職員同士で内容を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様が数名おられるので、成年後見制度の理解と必要性を考えながら支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学や重要事項説明を実施し、その後、個人面談で契約を締結している。その後3カ月に1度ケアプランの見直し、その他利用に関しての説明(入居時の施設利用料金について等)を行っている。その際は、ご家族に十分納得していただけるように心がけている。また、介護保険改定後の際も説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1Fに意見箱を設置している。ご家族からの意見は職員全体で共有し、指摘された自玉は改善に努め、よりよいケアが出来るよう努めている。	入居者の意見や要望は日々の会話に盛り込みながら聞き取り、家族には来所時や電話にて遠慮なく意見をもらう様伝えている。出された内容については全職員で共有したのち、対応方法を家族に説明しながら記録として残し、ケアの向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、ユニット会議に参加し、自分の意見や他職員の意見を聞く機会を設けている。	職員は月の会議で意見を出し合い、ケアや職務改善に反映させている。職員からの「何事も一度はやってみてそのうえで継続か否かを決めたらどうか」という意見を取り上げ、全員で取り組むこととしている。管理者は不定期であるが職員面談を行い、思いを吸い上げながら、個人的な相談にも応じるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスによる昇給、昇格と格付け給料表の厳格な適用により、介護職員の処遇改善を着実に実施している。平成28年4月1日から介護職員全員に月8000円のペースアップを実施し、職員の努力が報われる、やりがいのある職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、6ヶ月研修、施設内研修、外美研修に参加し、知識や技術の向上に努めることができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内研修や勉強会で特養・ショート・デイサービス職員との意見交換の場を設定している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居様様が、今までとおり、その人らしく過ごせるよう、時には御家族の力も借り、コミュニケーションを取りながらケア向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に御家族様と話す時間を設けている。また、ご家族からの意見等にも迅速に対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所での生活状況の記録も提供していただき、御家族と初期対応の見極めと支援について、相談、連絡を取れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にコミュニケーションを心がけ、花の水やり、皿洗いなどを一緒に行ってもらい、尊厳と感謝の心を忘れないように接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族にしか出来ないことがあるため、本人様と御家族との絆を尊重しながら職員も共に協力して、より良いケアを確立している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の写真や物を居室に置いたり、昔の思い出話を聞いたりして、馴染みの関係継続の支援に努めている。	大切な家族や知人が来訪した際は、ゆっくり過ごしてもらえよう状況や希望に応じリビングや居室へ案内している。また、次回の訪問も依頼している。馴染みの場所に出かける機会は少ないが、茶碗洗いや配膳の手伝いなどこれまで家庭で行ってきた作業が引き続きできる環境を心掛けている。また、大好きな童謡を楽しんだり、コーヒーの甘さ具合やこだわりの銘柄の牛乳を準備するなど可能な限り支援している。	今後も趣味や特技、こだわりなど個々に応じて支援されることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ作り、レクレーションなどを通して、入居者様同士が自然と交流出来るようにしている。また、入居者様同士が自然と会話したり、トラブルを回避できるように職員が見守りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院されている時も、御家族と密に連絡を取り、お見舞いに伺ったりしている。また、御家族のフォローや入居者様の分からないことなどに相談にのり、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月に1回、担当者会議を開催し本人の意向や御家族の意向を確認している。また、入居者様とコミュニケーションを取り、どのような暮らしがしたいのか希望に沿えるよう努めている。	定期的な担当者会議をはじめ、入居者とのコミュニケーションを図ることで思いや意向に沿った支援に繋がるよう取り組んでいる。自分の思いをはっきり伝えることが困難な方や遠慮される方もあり、ゆったりと過ごす場面を大切にしている。また、家族の来訪時には、直近の様子を伝えながら気づいたことがないか尋ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前の暮らしの情報を職員間で共有し、入居する前の馴染みの暮らしが出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し、その日の体調や気づいたことを職員間で共有し、入居者様の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて、ケアプラン、24時間シートに基づき、家族・ケアマネ・計画担当者・看護師・職員の意見を聴きながら、一番良い介護計画を作成している。	3か月に1度の担当者会議では入居者の思いを第一に家族や職員の意見を盛り込み、プラン立案に繋いでいる。入居間もない方への配慮や、遠方の家族の面会支援、運動不足を心配する家族への対応など個別に入居者目線を重視した内容としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者様の体調管理、排泄状況、食事摂取量等の様々な情報を職員間で共有し、ケアの実践や介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診の際の送迎や入居者様の御家族に電話したいと訴えがあった場合は迅速に対応している。また、入居者様の状況に応じて柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事のどんとや・ぼうぶら祭・祇園祭り等に参加し、地域資源を活用している。また、花の水やりや熊本駅周辺、白川沿いなどにも散歩に出かけ、入居者様が楽しめるような支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、御本人や御家族の希望を重視している。緊急の場合や家族が都合が悪い時は病院への送迎も行っている。	かかりつけ医については、本人・家族の希望を尊重している。受診は家族やホームでの送迎、協力医による訪問も行われている。日々の健康管理は看護職員を中心に行っており、毎日のバイタルチェックや毎月の体重測定、排泄、食事摂取などからも何かあれば早めの受診対応を行っている。また、口腔ケアも重要な支援として取り組んでおり、協力歯科医の指導による研修会が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、毎朝・夕に各フロアを訪れ、入居者様の体調管理を行っている。その際に職員が看護師に個々の入居者様の情報を提供し、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院へ訪問し、入居者様の経過を病院関係者に尋ね、その後、医療連携関係票を作成し、情報を宛を実施している。また、往診時は現在の様子を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期・看取りに関しては、早い段階から御家族と話し合いの機会を持ち、事業所の方針を御家族、関係スタッフ等で共有し、チームによる支援に取り組んでいる。	重度化・終末期に関しては、看取り指針をもとに家族への説明やその時点での意向などを話し合う機会が持たれている。家族の中にはホームでの最終を希望される方もあり、管理者は今後も日々の信頼関係を深め、その方らしい時間を過ごして頂けるよう、努力していきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の勉強会を開催している。離設訓練などの緊急時におけるマニュアルも日中、夜間を通して再度作成し直し、全施設での訓練を定期的実施し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2度の火災時避難訓練や消火器訓練等を消防署と協力して行っている。また、入居者様の避難経路や居室への誘導を訓練で確認し、全職員が身に付けることができている。	火災については消防署の協力を得ながら避難誘導や消火訓練を実施している。備蓄についてはリストを作成し3~4日分確保されており、職員への周知を行っている。8階という環境のため、入居者の避難誘導では全職員が速やかに行えるよう指導が行われており、業務の中でコンセントの埃確認や調理器具などを含む安全チェックをおこなっている。	火災に関してはまずは火を出さないことが一番と思われる。また、自然災害については机上の訓練等、今後も意識を持って入居者の安全確保に努めていかれることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳と思いやりの心を持って不快にならないような言葉かけを行うようにしている。	呼称は本人に合わせて行っており、家族にも了承を得ている。同性介助については職員配置の点から困難の場合もあり、現在は入居者の拒否もなく家族へもその旨を伝えている。守秘義務やプライバシーの確保については職員研修で周知を図り、家族へも個人情報の使用に関する承諾や面会記録もユニットごとに個別記入で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合で決めるのではなく、御本人様の意向や好みを聞き、自己決定できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人様の意向や好みを聞き、無理強いするのではなく、御本人様の希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時更衣をされるときは、今日1日どの服を着たいのか、入居者様に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつバイキングやお弁当の日があり、食事の楽しみとなっている。また、食事前に「今日のご飯は〇〇ですよ」など、声掛けをするようにし、食事内容を理解してもらって、一緒に食事の準備をしていただいている。	献立は法人栄養士が作成し調理は外部委託となっているが、主食の米飯を各ユニットで炊き、朝食時は好みでパンも準備している。また、アンケートでも食形態や味つけなどを聞き取り個々に応じた食事提供が行われている。正月や敬老祝膳をはじめとした季節膳、月1回のおやつバイキングも好評である。献立表は季節のカット絵をつけ、各ユニットに掲示されている。入居者が調理に関わる機会は殆どないが、テーブル拭き、食器洗いもエプロンを付け、職員と一緒に手際よく行われていた。また、先人の知恵を生かし梅干作りも行われている。	職員はエプロンの必要な方には必ず声掛けを行うようにしている。今後も首に負担のない使用方法やメニューによってはタオルで対応できないかなど、状況に応じて支援されることを期待したい。職員は休憩を兼ね後に持参した弁当などを摂っている。今後は1名でも同じ食事を摂る事で味・量の確認や思いを共有できるものと思われる。また、食事中的の見守りにおいては本人のそばに着席することで、入居者も落ち着いて食事をする事ができ、茶碗などの破損にも気づくものと思われる。今後の取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を十分に摂取していただけるように、食事以外にも10時、15時の水分補給や入浴後、入居者様から訴えがあった場合は、水分を取っていただいている。また、本人の好みに合わせた飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を使用されている方には、居室まで付き添い、声掛けと一部介助を行っている。また、御本人様が困難な場合には、スポンジブラシ等で職員が口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的誘導と尿意、便意の訴えがあった場合はトイレへの誘導をしている。失敗された場合には、自尊心を損ねないような声掛けなどを行い、支援している。また、排泄が自立困難な場合は、排泄チェック表を作り、適切な対応を心がけている。	個々の状況に応じ定期的な声かけ・誘導、自立の方の見守りなどを行っている。また、必要に応じ排泄チェック表を活用している。居室にトイレが備わっており、入居者は自室でゆっくり自分のペースで排泄ができることも、自立の継続や失敗時の速やかな対応につながっている。排泄用品や支援方法についても、最良の方法を検討し共有に努めていることが聞き取りからも確認された。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の有無を確認し、看護師と連携を取りながら排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、週3回の入浴を基本としている。拒否等が強い時には、無理に入浴させず、時間をずらしながら再度声掛けし、タイミングを大事にしている。	入浴支援の曜日は決まっているが、基本的に週3回午前を中心に行っている。拒否に関しては、無理強いせず音楽を聴いてもらったり、好みの飲料や食べ物などで気分を変えて誘導するなど工夫している。ホームには機械浴と家庭的な個浴を設置し、身体状況に応じ支援されている。時には家族から差し入れされた入浴剤も使用し、香りを楽しみながらの入浴となっている。浴室内は日々掃除を徹底しているが、管理者は8階ということや窓がないという点から、排水口からの臭気が気になることもあり、今後も十分注意していきたいとしている。	身体状況に応じた浴室やゆとりの脱衣場も備わっている。今後はシャンプー、洗剤などの収納や、洗面台に置かれた塗り薬は別の場所で管理することが必要と思われる。取組に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適な睡眠を取っていただけるように、湿度調節や室内の明るさに気をつけている。また、ギャッジアップなどをして、御本人様にとって安楽に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の入居者様の薬の内容を理解し、服薬チェック表の活用と職員間でのダブルチェック、本人の前での復唱をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の希望に合わせて、レクレーション、散歩、歌声サロン、機能訓練、花の水やり、皿洗い等の支援を行い、楽しみごと(好きなこと)や気分転換ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春のお花見、秋の紅葉狩り等を定期的に計画して外出し、日常的には外へ散歩に行かれる等、個人に合わせて外出を行っている。	桜やこいのぼり・紅葉見物、初詣など計画的な外出をはじめ、希望や身体状況に応じ、川沿いや敷地内の散歩などに出かけている。また、専門学校園芸部の学生と野菜(なす・ミニトマト・ピーマンなど)やサルビアの苗植えなど花壇作業も行われている。外出の状況については、運営推進会議の中でも資料をもとに報告を行い、外出の機会に繋がるような情報も受ける機会となっている。	今後も家族の協力を得ながら、外出の機会を持たれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、ほとんどの方が管理出来ないため、すべて家族が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、お手持ちの携帯を利用したり、電話の前まで誘導するなど行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物を入居者様と一緒に作成し、居室やフロアの飾り、季節感のあるスペース作りをしている。また、ホール内の廊下には、手作りの鶴を入居者様と作り飾っている。	建物8階にあるグループホームは、エレベーターで上がると、肥後りんどう、肥後いちょうと名付けられたユニットが左右に配置されている。リビング・ダイニングには段上がりの畳の間を設けているが、入居者の身体状況から腰かけなどの利用が殆んどの方である。ホール内の廊下では歩行訓練される方やソファでゆっくりテレビ視聴される方の姿があった。また、気兼ねなくラジカセを聞けるようイヤホンも準備されており、食後身体をゆすりながら大好きな音楽の時間を楽しまれる入居者の姿が印象的であった。	8階にあるホームであるが努めて外出の機会を持っている。今後は散歩中に摘んだ草花など身近な植物を共用空間に取り入れ、外出できなかった方と更に季節感を共有いただきたい。また、ホーム内の音楽やテレビの音量、使用についてはメリハリが必要と思われる、検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルで入居者様同士で会話を楽しんだり、独りになれるような居場所づくりに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様が過ごしやすいよう一人一人に合わせた個別のお部屋が御家族の意向を反映した形で出来ている。	「自分らしく生きる」支援を基本理念の一つとし、本人らしく、安心して過ごせる環境となるよう持ち込みの品などについて説明を行っている。遺影や家族の写真、観葉植物、お気に入りの帽子や書物、椅子やテーブルなども安全面に配慮して置されている。入居後も居室環境については家族と連携を図り、ベッドの向きなども身体状況などに応じて職員間で検討や見直しが行われている。また、居心地よく過ごせるよう、日頃の掃除や換気にも十分努めている。	プライバシーにも配慮し、トイレのある使い勝手の良い居室となっている。排泄用品については、収納ケースやクロスを掛けるなど職員のひと工夫に期待したい。また、入口の表札には、担当者名とホームとしてのメッセージが記されている。今後は一人ひとりに応じた担当職員からの一言があると、更に家族との信頼関係にも繋がるものと思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに行きやすいようにベッドの配置を変えたり、歩行不安定な人には必ず付き添うなどし、転倒防止に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101386		
法人名	社会福祉法人青照会		
事業所名	グループホーム グッドライフ熊本駅前		
所在地	熊本市西区春日2丁目1番24号		
自己評価作成日	平成29年8月17日	評価結果市町村受理日	平成29年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が立ち上がり、今年で4年目を迎えます。職員一人一人理念に沿って、「お一人お一人に寄り添う笑顔あふれる和みの「我が家」を目標として、日々ケアに努めています。4年目を迎えて、立ち上げ時と変わらないのが、週3回の入浴を実施し、入居者様に不快な感じを与えないようにしているところです。また、施設内研修、勉強会、委員会活動も年々スキルアップし、職員の質の向上に努めています。これからも、その人が望む生活、意向に沿いながら支援していきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を掲示し、理念に基づいたケアが出来るように常に心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の学校のイベントに参加したり、季節の行事、ギター、三味線演奏会、歌声サロン、散歩、飾り等を取り入れた活動に参加していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、外部評価の資料なども掲示し、いつでも家族などが見れるようにしている。また、入居者様の普段の様子などを写真に収め、掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、会議では貴重な意見やアドバイスをいただいている。入居者様の普段の様子を写真に取り入れて、それをパソコンからテレビにつなげ、視覚的に分かるようにした。また、施設の取り組んでいる状況や事故、ヒヤリハットの報告もしている。運営推進会議の内容も家族・職員がいつでも見れるように掲示板に掲示している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	熊本市ボランティア協会の支援などを受けて、協力いただいている。その他にも緊急時の避難場所として施設を開放したり、熊本市介護保険サポーターポイント事業受入れ施設にもなっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、ベッド柵の基準や手足の拘束、車椅子での拘束、スピーチロックなどの理解を深め、職員同士で認識の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や日々のケア時にボディチェックを行い、虐待を思わせるような傷がないか注意を払い、虐待防止に努めている。また、勉強会なども取り入れて、職員同士で内容を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様が数名おられるので、成年後見制度の理解と必要性を考えながら支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学や重要事項説明を実施し、その後、個人面談で契約を締結している。その後3か月に1度ケアプランの見直し、その他利用に関する説明(入居時の施設利用料金について等)を行っている。その際は、ご家族に十分納得していただけるように心がけている。また、介護保険改定後の際も説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1Fに意見箱を設置している。ご家族からの意見は職員全体で共有し、指摘された自王は改善に努め、よりよいケアが出来るよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、ユニット会議に参加し、自分の意見や他職員の意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスによる昇給、昇格と格付け給料表の厳格な適用により、介護職員の処遇改善を着実に実施している。平成28年4月1日から介護職員全員に月8000円のペースアップを実施し、職員の努力が報われる、やりがいのある職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、6ヶ月研修、施設内研修、外美研修に参加し、知識や技術の向上に努めることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内研修や勉強会で特養・ショート・デイサービス職員との意見交換の場を設定している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が、今までとおり、その人らしく過ごせるよう、時には御家族の力も借り、コミュニケーションを取りながらケア向上に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に御家族様と話す時間を設けている。また、ご家族からの意見等にも迅速に対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所での生活状況の記録も提供していただき、御家族と初期対応の見極めと支援について、相談、連絡を取れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にコミュニケーションを心がけ、花の水やり、皿洗いなどを一緒に行ってもらい、尊厳と感謝の心を忘れないように接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族にしか出来ないことがあるため、本人様と御家族との絆を尊重しながら職員も共に協力して、より良いケアを確立している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の写真や物を居室に置いたり、昔の思い出話を聞いたりして、馴染みの関係継続の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ作り、レクレーションなどを通して、入居者様同士が自然と交流出来るようにしている。また、入居者様同士が自然と会話したり、トラブルを回避できるように職員が見守りながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院されている時も、御家族と密に連絡を取り、お見舞いに伺ったりしている。また、御家族のフォローや入居者様の分からないことなどに相談にのり、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3カ月に1回、担当者会議を開催し本人の意向や御家族の意向を確認している。また、入居者様とコミュニケーションを取り、どのような暮らしがしたいのか希望に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前の暮らしの情報を職員間で共有し、入居する前の馴染みの暮らしが出来よう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し、その日の体調や気づいたことを職員間で共有し、入居者様の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて、ケアプラン、24時間シートに基づき、家族・ケアマネ・計画担当者・看護師・職員の意見を聴きながら、一番良い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者様の体調管理、排泄状況、食事摂取量等の様々な情報を職員間で共有し、ケアの実践や介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診の際の送迎や入居者様の御家族に電話したいと訴えがあった場合は迅速に対応している。また、入居者様の状況に応じて柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事のどんどこや・ぼうぶら祭・祇園祭り等に参加し、地域資源を活用している。また、花の水やりや熊本駅周辺、白川沿いなどにも散歩に出かけ、入居者様が楽しめるような支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、御本人や御家族の希望を重視している。緊急の場合や家族が都合が都合が悪い時は病院への送迎も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、毎朝・夕に各フロアを訪れ、入居者様の体調管理を行っている。その際に職員が看護師に個々の入居者様の情報を提供し、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院へ訪問し、入居者様の経過を病院関係者に尋ね、その後、医療連携関係票を作成し、情報を苑を実施している。また、往診時は現在の様子を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期・看取りに関しては、早い段階から御家族と話し合いの機会を持ち、事業所の方針を御家族、関係スタッフ等で共有し、チームによる支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の勉強会を開催している。離設訓練などの緊急時におけるマニュアルも日中、夜間を通して再度作成し直し、全施設での訓練を定期的実施し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2度の火災時避難訓練や消火器訓練等を消防署と協力して行っている。また、入居者様の避難経路や居室への誘導を訓練で確認し、全職員が身に付けることができている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳と思いやりの心を持って不快にならないような言葉かけを行うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合で決めるのではなく、御本人様の意向や好みを聞き、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人様の意向や好みを聞き、無理強いするのではなく、御本人様の希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時更衣をされるときは、今日1日どの服を着たいのか、入居者様に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつバイキングやお弁当の日があり、食事の楽しみとなっている。また、食事前に「今日のご飯は〇〇ですよ」など、声掛けをするようにし、食事内容を理解してもらって、一緒に食事の準備をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を十分に摂取していただけるように、食事以外にも10時、15時の水分補給や入浴後、入居者様から訴えがあった場合は、水分を取っていただいている。また、本人の好みに合わせた飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を使用されている方には、居室まで付き添い、声掛けと一部介助を行っている。また、御本人様が困難な場合には、スポンジブラシ等で職員が口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的誘導と尿意、便意の訴えがあった場合はトイレへの誘導をしている。失敗された場合には、自尊心を損ねないような声掛けなどを行い、支援している。また、排泄が自立困難な場合は、排泄チェック表を作り、適切な対応を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の有無を確認し、看護師と連携を取りながら排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、週3回の入浴を基本としている。拒否等が強い時には、無理に入浴させず、時間をずらしながら再度声掛けし、タイミングを大事にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適な睡眠を取っていただけるように、湿度調節や室内の明るさに気をつけている。また、ギャッジアップなどをして、御本人様にとって安楽に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の入居者様の薬の内容を理解し、服薬チェック表の活用と職員間でのダブルチェック、本人の前での復唱をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の希望に合わせて、レクレーション、散歩、歌声サロン、機能訓練、花の水やり、皿洗い等の支援を行い、楽しみごと(好きなこと)や気分転換ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春のお花見、秋の紅葉狩り等を定期的に計画して外出し、日常的には外へ散歩に行かれる等、個人に合わせて外出を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、ほとんどの方が管理出来ないため、すべて家族が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、お手持ちの携帯を利用したり、電話の前まで誘導するなど行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物を入居者様と一緒に作成し、居室やフロアの飾り、季節感のあるスペース作りをしている。また、ホール内の廊下には、手作りの鶴を入居者様と作り飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルで入居者様同士で会話を楽しんだり、独りになれるような居場所づくりに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様が過ごしやすいよう一人一人に合わせた個別のお部屋が御家族の意向を反映した形で出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに行きやすいようにベッドの配置を変えたり、歩行不安定な人には必ず付き添うなどし、転倒防止に努めている。		